

## 月間三賞受賞者

<努力賞>

伊元 サチ子さん…年の祝いの祝舞の練習を頑張りました。  
 境 秀行さん…廊下のモップ掛けを頑張っています。  
 島袋 隼弥さん…ラジオ体操を上手に取り組んでいます。  
 平山 和子さん…体を休めることができるようになりました。  
 森山 麻李亜さん…ストックヤード作業での瓶投げを頑張っています。  
 満林 アツ子さん…苦手な早起きを毎日頑張っています。

<親切賞>

竹田 美喜子さん…落ちていたひざ掛けを友だちに掛け直してあげました。

<奉仕賞>

隈元 利彦さん…洗濯物量みの手伝いを積極的に取り組んでくれました。

# No.2

## ゆらい慰問コンサート



1月21日火曜日に、ほーらしゃゆらいさんの5の方がボランティア慰問に来てくださいました。利用者さんがカラオケで歌っている曲やジャンベ隊が披露している、「上を向いて歩こう」等の曲をハーモニカやギターで演奏して頂きました。利用者さん、職員も口ずさんだり、手拍子しながら楽しみ、曲に合わせて踊る利用者さんもいました。最後は島のブルースや六調で締め、1時間ちょっとの短い時間でしたが、楽しい時間を過ごせました。また、木で作られた手作りの小物を全員に頂きました。その日の残りの仕事がとてもいい気持ちで終える事ができ、ありがとうございました。(記事：松原(世))



演奏に合わせて踊ったよ!



## 「知名瀬 白浜 愛の浜」

出勤時、職員駐車場から裏門を目指す時、園の敷地すぐ向こうに海が見えます。この知名瀬の海は、私が奄美で一番好きなロケーションです。馴染みの風景のようであっても、日毎の海況により飽きることはありません。冬は荒天で時化が多いですが陽ざしに恵まれた凧の時、知名瀬の海はエメラルドグリーン色に輝きます。その色で故郷岩手の海を思い出すのか、日々の業務に追われながらもこの海を眺めると心がスッと落ち着きます。海のそばに身を置くことは沢山の恩恵がある反面、いざという時の備えも重要になります。愛の浜園では定期的に防災訓練が行われ、その際は私たち事務員も参加していますが、みなさん真剣に取り組む様子が窺えます。本番が来ないことを祈りつつ、日頃から防災意識は最大限保ちたいです。各地で地震が頻発していることもあり、みなさまにも今一度の備えの見直しをおすすめします。いつまでも知名瀬の穏やかな海を眺められますように。(記事：沖岡)



## 「小川先生、ありがとうございました！」

2020年、国内で初めて新型コロナウイルス感染が確認され、今年で5年が経過しました。コロナウイルスは猛威を振るい、全国で亡くなった人は、2024年8月時点で13万人を超えたことが厚生労働省の調査でわかっています。流行当初は、手洗い、消毒はもちろん、マスクを必ず着用する、密を避ける為に不要な外出は控える、流行地域への往来は避ける…等、色々な感染対策がありました。現在は昨年5月に感染症法上の位置づけが5類に変更され、感染症対策も少しずつ緩和されてきています。1月8日(水)大和診療所の小川信先生を講師として招き、感染症対策についての研修会を開催しました。愛の浜園では、2020年から毎年、感染症(コロナやインフルエンザ等)について学ぶ為に、小川先生からウイルス感染の基礎的な知識や感染防止の対策、防護服の着脱方法、感染者が出た場合のゾーニング等を教えて頂きました。小川先生のお話はとてもわかりやすく、丁寧に実践的に伝えて頂き、終わらない感染症の中で働く私たちを安心させてくれました。私が印象に残っているのは、防護服の着脱方法です。手袋の取り外し方、ガウンを脱ぐ時はガウンの表面を触らないように…と、慣れない防護服に戸惑いながらも、小川先生がコツを教えてくださいました。とても勉強になったことを覚えています。今回、小川先生が奄美を離れるという事で1月の感染症対策の研修が最後になりました。寂しい気持ちもありますが、日々の感染症対策を忘れずに、感染症が園内で発生した時は、小川先生から教わった事を実践し、利用者の皆さんが安全で安心した気持ちで過ごせるように努めていきます。小川先生、私たち愛の浜園の為にありがとうございました。奄美を離れてもお元気にお過ごしください。(記事：東)



小川先生がガウンの着方を丁寧に教えてくれました。